

平成30年度 第5回 海老名市社会教育委員会会議内容

日時：平成31年2月21日（木）

10:00～12:00

場所：えびなこどもセンター201会議室

【出席者】

委員	植松慶子、志村 政憲、栗山 明郎、三部雅世、塩地ひとみ、森田壽、山田信江
事務局	伊藤教育長、岡田部長、小宮次長、伊藤次長、小林課長、西海課長補佐、小菌副主幹、橋本主任主事
教育総務課	向原主査
指定管理者	高橋、池田、谷一、三瀬

【議事】

(1) 海老名市立図書館に関するアンケート結果について

①海老名市立中央図書館から説明

～質疑応答～

委員：来館者の市内と市外の割合はどのようになっているか。

指定管理者：来館者での数字は出していない。貸出者であれば、市内60%程度である。

委員：アンケートの回答者の市内と市外の割合はどのようになっているか。

指定管理者：市内が65.8%で市外が32%、県外からが2.2%である。

委員：ロッカーの案内がわかりづらい。利用していただくことで少しでも席が空くのではないか。

指定管理者：検討します。

委員：地域との交流含めたイベントは大事なことと思う。今後も継続していただきたい。その中で、認知症の方に対する取り組みというのはいかがでしょうか。

指定管理者：認知症の講演会に職員を参加させている。今後とも取り組んでいきたい。

委員：天候による利用者の統計もしてみたいか。

指定管理者：検討します。

委員：確かに満足度は昨年度から比べると下がってはいるが、75%を超えているので問題ないように思える。単に座席数を増やすだけでなく、説明頂いたような課題の解決をしていけばよいのではないか。

委員：滞在時間3時間というのは他と比べて長いのか。

指定管理者：6館やらせていただいているが、平均2時間程度で、それらと比べると長いことになる。本の貸し借りではなく、学習や研究で利用している方が多い。

委員：サンカンマルシェにはどのような所が出店しているのか。

指定管理者：障害者の方が働いているはあとすまいるや、コーヒーの焙煎をしているコーヒーショップや手作りで箸を作られている中津帯などに店を出していただいている。

委員：サンカンマルシェでの収入は図書館に入っているのか。

指定管理者：テント等の利用料1000円は徴収しているが、そこでの収益の徴収はしていない。

②海老名市立有馬図書館から説明

委員：今泉小学校の図書室においてあるスクラップブックは見事なものである。作成して終わるのではなく、子どもたちにどのように使ってもらうか、子どもたちにどう関わってもらうかを検討してもらいたい。例えば、スクラップブックを子どもたちと一緒に作るなど。

指定管理者：ありがとうございます。方法については検討します。

委員：新刊本は中央図書館が多く、有馬図書館では多くは購入できないということではあった。しかし、古い図書の中にも、今の流行に合った図書というものがあるはず。それらを出していくのでもよいのではないか。

指定管理者：季節やテーマに沿った図書でコーナーを設けている。また、ティーンズコーナーも充実させている。

委員：駐車場が足りないということであったが、対策はどのように考えているのか。

事務局：教育委員会としても認識しているので、検討中である。

(2) 社会教育計画の見直しについて

事務局より説明後、2グループに分かれワークを実施

①グループ1 (山田委員、塩地委員、森田委員)

- ・子どもたちの未来を考えると、心身ともに成長し、夢や希望を持っていただきたい。
- ・大人たちが、社会観念にとらわれず、勉強をしてほしい。
- ・子どもは宝。子どもたちの意見を多く聞いて、包容力のある大人の対応から、子どもに夢を持たせたい。

②グループ2 (志村委員、植松委員、栗山委員、三部委員)

- ・家族や友だち、先生、地域の人たちに対してもあいさつのできる子どもになってほしい。柏ヶ谷小学校のアンケートによると80%の子どもがあいさつしている。
- ・体と心の健康を大事にしてほしい。最近では就寝時間の遅い子どももいる。
- ・自分自身や友だちを好きになって、自分に自信を持ち自分の意見を言えるような子どもになってほしい。等身大であってほしい。
- ・地域行事にも積極的に参加してほしい。柏ヶ谷小学校のアンケートだと60%程度が参加している。

事務局：これらの意見から、方向性の案を事務局でまとめたい。

(3) 相模国分寺跡の案内板について

教育総務課文化財係より説明

～質疑応答～

委員：見やすい場所に案内ができてよい。